

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	町田市計画道路3・3・36号線		評価該当要件	5年間継続	2回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	道路建設部街路課		
都市計画決定(当初)	昭和36年度	事業認可年度(当初)	平成19年度	事業期間: H19年度~H25年度	
都市計画決定(最新)	昭和36年度	事業認可年度(最新)	令和5年度	事業期間: H19年度~R5年度	
事業箇所	町田市本町田~同市旭町三丁目	事業規模	評価対象区間延長 800m		
事業概要	町田3・3・36号線は、町田市相原町から同市南町田四丁目に至る延長約18.1kmの都市計画道路で、多摩地域の骨格を形成する幹線道路である。 本事業は、町田市本町田を起点とし、町田市旭町三丁目に至る延長0.8kmの区間について、幅員25mの道路を新設するものである。 当該区間の整備により、町田市中心部へのアクセスが向上するとともに、周辺道路の交通分散が図られる。また、歩道を整備し、電線類の地中化することで、快適で安全な歩行空間が形成され、都市景観の向上が図られる。				

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載) (社会情勢の変化) 本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。 現況自動車交通量【町田街道】(道路交通センサスによる) 平成22年度: 13,516台/12h、平成27年度: 12,689台/12h (関連する他事業等進捗状況の変化) 本事業の西側において、町田3・3・36(常盤町)が令和元年度に事業着手した。 また、本事業の北側において、町田3・3・8(本町田Ⅰ期)が平成元年度、町田3・3・8(本町田Ⅱ期)が平成17年度、町田3・3・8(薬師池Ⅰ期)が平成25年度、町田3・3・8(薬師池Ⅱ期)が平成28年度に事業着手している。
--

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	1.6		
現在価値化総便益額(B)	207.7億円	現在価値化総費用額	126.7億円
走行時間短縮便益	191.7億円	工事費	48.7億円
走行経費減少便益	15.8億円	用地費	73.0億円
交通事故減少便益	0.2億円	維持管理費	5.0億円
定性的効果	<交通> ・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・バスの定時性 ・迂回交通の減少 <防災> ・緊急車両の走行 ・延焼遮断 ・災害時の避難路の確保 <くらし> ・公共施設へのアクセス向上 <安全> ・交通事故の減少 ・バリアフリー化 <景観> ・都市景観の向上 ・自転車や歩行者のための空間確保		

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R2年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,235百万円	4,395百万円	9,630百万円
執行済額	5,228百万円	2,821百万円	8,049百万円
(執行率)	99.9%	64.2%	83.6%
用地取得状況 (R2年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)	
19,410㎡	19,374㎡	99.8%	
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
多くの地権者から事業への協力を円滑に得られたが、一部権利者については合意を得るにあたり時間を要している。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
・未取得用地の早期更地化を目指し、折衝や収用手続きを進めている。 ・現在、橋梁工事及び擁壁工事、電線共同溝設置工事を行っている。 ・引き続き、橋梁工事を進めるとともに、街路築造工事、電線共同溝設置工事などを進めていく。			

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
・収用手続き中の画地においては必要な事務手続きを円滑に行う等、残り数件となる未取得箇所について、各画地毎に必要な事務・折衝を進めていき、工事工程に支障が生じないように努める。 ・今後、残る橋梁工事、街路築造工事、電線共同溝設置工事を進める。

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性)
・橋梁及び擁壁については、コスト比較を行った上、経済的なものを採用しており、契約・施工中であるため、新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。 ・その他については、一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって新工法の採用等による新たなコスト縮減の可能性は極めて少ない。
その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取組み
・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

7 対応方針(原案)

総合評価	・本事業区間の整備により、町田市中心部へのアクセスが向上するとともに、周辺道路の交通分散が図られる。また、歩道を整備し、電線類を地中化することで、快適で安全な歩行空間が形成され、都市景観の向上が図られるなど十分な効果が期待できる。 ・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。
対応方針(原案)	継続